貫井の風

令和２年度１１月号
ＮＯ．８

練馬区立貫井中学校　学校だより

「利他の心」

校長　桐野　和之

皆さんは中学校生活を送るなかで、さまざまな困難にぶつかることがあると思います。そのため、今号では、友だちやクラスの仲間と協力しながら、生き生きとした学校生活を送るためのヒントとなる言葉を紹介します。それは「利他の心」です。

「利他」という言葉はあまり聞き慣れない言葉だと思います。「利他」の反対の意味を表す「利己」を使った言葉で「利己主義」という言葉は聞いたことがあると思います。自分だけの利益を優先するという考え方です。「利己」に対して「利他」とは、他人をよくしてあげようという優しい思いやりを大切にしようという考え方です。日本の代表的な企業経営者である、稲森　和夫さんは、「利他の心」を大切にして京セラという会社を一代で大企業に育て上げました。

稲森さんは、鹿児島大学を卒業後、京都の会社に就職しました。二七歳で独立し、八人の仲間とともに京都セラミックという会社を立ち上げ、三〇年間で、従業員が一万人以上いる会社に育て上げました。京セラの社長・会長を退いた後、国民ができるだけ安い通話料で通信ができるようにと、ＫＤＤＩ（現在のａｕ）を設立しました。ＫＤＤＩを設立した理由も「利他の心」にあります。

「これからは通信の時代が必ずやっくる。そのとき、人々ができるだけ安く通信できるように」と、会社の利益よりも利用者が手軽に通信できるようにとの願いを込めて会社を興したそうです。稲森さんは、経営姿勢などから日本をリードする経営者として多くの人々の支持を得ています。ここにくるまでは試行錯誤の繰り返しだったそうです。

「会社がうまくいかないのはなぜだろう。どのようにしたら、社員がやる気を出してよい会社になるだろうか」ということを考え抜き、いろいろな方法を試してみたそうです。そして、得られた結論が、「利他の心」という考え方でした。「自分の持てる力を世のため人のために使う」ということを実施したら、会社の仲間が意欲的になり、自然に周りの人から協力が得られるようになってきたそうです。

この考え方は、皆さんが学校生活のさまざまな場面で困難にぶつかったとき、役に立つ考え方です。たとえば、行事などでクラスの仲間とうまく協力できなかったという経験があると思います。みんなと協力していいものをつくりあげたいという気持ちはあるのだけれど、気持ちばかり空回りしてうまくいかなかったという思いをしたことがありませんか。そうしたときに「利他の心」を思い起こし、自分の利益ばかりでなく、他の人のプラスになる行動をとってみてはどうでしょうか。そういう行動をとることで、きっとこれまでとは違ったかかわり合いが生まれてくると思います。また、個人だけでは解決できない課題でも、みんなと一緒に取り組めば、思ったよりも楽に困難を乗り越えられることもあります。貫井中学校の生徒一人ひとりが、「利他の心」を大切にすることで、クラスや学年が温かな雰囲気になることと思います。そして学校全体が温かで活気あふれる学校になることを期待します。私自身も「利他の心があれば、必ず成功できる」という考え方を大切にしていきたいと思います。

誌上授業公開

一年生英語１０／２

５時間目、一年生の英語の少人数授業を参観しました。

授業の冒頭では、先生の英語の声かけによる挨拶が生徒と先生で行われました。日付、天候、今日の気分を互いに英語で対話をすることで授業は始まりました。

授業では、教科書の対話文をまずペアで音読しました。対話の中心人物をペアでそれぞれ交代しながら音読を続けました。

次に、今日の一番の目標は、Does　he／she で始まる疑問文を使ったペアによる会話をしてみようです。

最初にワークシートに記載されていたＡとＢの英会話文をしっかりと読み、和訳することで会話の内容の理解に努めました。文の中には当然、Does　he／she で始まる内容が利用されています。

その後にいよいよ、各自配付されたワークシートに最低３つの Does　he／she で始まる疑問文をつくり、いろいろな人とのペアワークが始まりました。

いろいろな人と対話をするペアワークの継続により、Does　he／she で始まる文への理解、活用の仕方が少しずつ深まっていきました。

一年生国語（１０／５）

５時間目、一年生の教室で国語の授業が行われていました。

オノマトペを活用し、オノマトペの効果について自分の考えを持つことが授業の目標でした。授業では最初にオノマトペ、「擬音語」「擬態語」について復習しました。

オノマトペとは擬音語や擬態語を使用して状態や動きを表現する方法です。

授業では各班（８班）に分かれて、先生が画像で示した「カツカレーとコップに入った水」を見ながらオノマトペ食レポをしてみようという１回目の課題に取り組みました。

先生からは他の班が思いつかないようなオノマトペを考えてみようという条件が付け加えられました。

各班からは、ヒィー、ゴクゴク、モグモグ、ポタ、コリコリなどカレーだけでなく、福神漬けを食べたり、カレーを食べながら水を飲んだりするところまでを想定するオノマトペが考案されました。

次に「イチゴのシャーベット」の画像を見ながら、それを食べたらという想定で第２回目のオノマトペの課題に各班が取り組みました。すると各班からは、スー、サク、ペロ、シャキ等のなかなかユニークなオノマトペが考案されました。

授業の最後にはオノマトペの効果について各自が考えたり、感じたこと、思ったりしたことをそれぞれがまとめました。

まとめたことを紹介すると、「オノマトペは食べていない人にも、実感をもって伝わってくるという効果があります。オノマトペを使った食レポとオノマトペを使っていない食レポでは分かりやすさがちがうと思う」「いろんなオノマトペがあることを実際にやってみてわかった」等、授業が楽しく主体的に取り組んでいるようすが見受けられました。

「今、卒業生は」～シリーズ③～

令和元年度・女子卒業生

私たちが卒業してから約半年が経ち、貫井中を恋しく思います。新型コロナウィルスの影響で入学式も無く始まった高校生活はあっという間で、不慣れな新しい日常に戸惑いつつも貫井中で学んだことを思い出しながら日々過ごしています。

私が今の高校を目指したきっかけは、２年生の夏に課題で出た高校調べで学校説明会に行った事です。そこで見た校風、英語に特化した授業、行事に対する熱意に惹かれすぐに志望校を決めました。それからの１年は推薦合格の目標を定めて内申点を取ることを重点的に考え、定期考査や日々の授業に力を入れると同時に部活動に専念しました。

けれども、３年生になってからは模試の結果や成績に伸び悩み、焦りで行き詰まってしまい志望校を変更するかとても悩みました。

そんなときに顧問の先生や担任の先生に助言を頂いて冷静に将来のことを考え、自分が後悔しない道を選ぶことができました。

そして今は多国籍のクラスメイトとコミュニティを広げながら、国際問題や世界情勢についてなど自分が学びたかったことを勉強しています。

今、中学生の皆さんも先の見えないこの状況下で楽しみにしていた行事や大会など様々なものが中止となってしまい、歯がゆい思いをしている人が大勢いると思います。

特に受験生である３年生は、限られた時間の中でやるべき事が多く、不安や焦りがあるとは思いますが、時には息抜きをしながら前向きに、今ある毎日を大切に過ごしてください。応援しています。

１０／３０　薬物乱用防止教室

練馬警察署少年係のスクールサポーター２名の方々を講師としてお招きし、講義やＤＶＤの視聴による薬物乱用防止教室を実施しました。お話し頂いたポイントをいくつか紹介します。

最初に喫煙や飲酒の話。未成年者の飲酒、喫煙は体に害があり、毒になると言っても過言ではない。未成年者がタバコに手を出すことは他の薬物に対する抵抗感を奪い、シンナー、大麻、覚醒剤等の薬物に手を出す可能性が高まるリスクがあると仰っていました。また、お酒は、大人にとっては「百薬の長」と言われ、適量のお酒は有益だが、未成年者にとっては「百害あって一利なし」つまり、「体に害が及ぶ」ことになる。中学生は心身ともに成長段階にあり、アルコール分解能力も大人に比べて大変未熟で、マイナス以外の要素はないということでした。

次に中学生の犯罪についての話。中学生が罪を犯すと、少年係で取扱を受け、中学生が罪を犯しても問われないと思っている人がいるが、認識を改めてほしい。つまり中学生でも逮捕、拘留される。また、犯罪の動機が、いたずら、悪ふざけ、おもしろ半分など言い訳は一切通用しない。罪を犯せば家族が大変悲しい思いをすると話がありました。

そして、いよいよ本題。話しの例に風邪薬の服用の仕方が挙げられました。少年がサッカーの試合前日に風邪気味なので早く治るよういつもの倍の６錠服薬した。「これはいいのかな？」と問いかけられ、答えは正しくない。薬はちゃんと用法・用量を守って利用しなくてはいけない。薬を大量に飲むとめまい、吐き気などの体への悪影響が出る。

これも薬物の乱用になるということでした。

次に、違法薬物「覚醒剤」「大麻」「コカイン」と聞くと危険な薬物であると皆さんは知っている。そして、それらに誘われても断るはず。

しかし、「スピードやらない？」「チョコやらない？」と誘われたらどうでしょうと問いかけられ、覚醒剤の別名が、「スピード、シャブ、アイス」。大麻は「チョコ、ハッパ、マリファナ」。コカインは「クラシック、コーク」。これらの別名に「怖いものじゃない」という軽いイメージをもってしまうので、十分に注意してほしいということでした。・・知らず知らずに、誘われるままに、手を出すと薬物依存の世界に陥ってしまうことになる。

次に「耐性」と「依存性」についてお話がありました。「耐性」とは、体が薬の効き目になれてしまい、使用する回数が増えていくこと。「依存性」とは、薬が切れたときの苦しみから逃れるため、薬物を求め続け、薬に頼ってしまうこと。その結果、自分の体や心をコントロールできなくなる。「一回だけなら大丈夫だろう」という軽い気持ちで手を出してしまうともう後戻りができない。薬物の怖さを教えていただきました。

最後に生徒からの質問で、「大丈夫です」「けっこうです」という薬物の断り方はなぜダメなのですか？という質問に、警察の方からは。「いやです！」「やりません！」「ＮＯ！」ですとハッキリと強く断るよう指導、助言がありました。この話を聴いたときに昔「覚醒剤止めますか、人間止めますか」というある広告機構のフレーズを思い出しました。人間の体を破壊していく恐怖。どんなことがあっても手を出してはいけない物があると強く感じる講義、ＤＶＤの視聴でした。(以下生徒の感想を紹介します。)

１年男子生徒

今日のセーフティー教室では薬物に関するとても大事なことを学びました。薬物は人体に最悪な影響を与えてしまう、この世にあってはいけないものだなと痛感しました。

「自分の未来は自分でつくる」まさにその通りだなと思いました。１回でも乱用してしまうと、自分の未来が壊れてしまうので、自分の未来は、自分で考えてつくるということを意識したいです。そして誘われても自分の意思を伝えて、きっぱり断る努力をしたいです。

２年女子生徒

私は、セーフティー教室を受けて、薬物などは人体に影響があるだけでなく、周りの、自分を支えてくれる人や、思いやってくれる人たちへの心の傷もつくってしまうことに新めて気づきました。また、「嫌です」「やりません」とはっきり言うことが大切だという話も、とても大切だと思いました。私は、人にすすめられたりすると、本当は嫌でもはっきり言えない所があるので、気をつけようと思いました。私たちに、大切なことを教えてくださり、ありがとうございました。

３年女子生徒

今回のセーフティー教室で、改めて薬物について手を出してはいけないものだと心を引き締めるとともに、薬物や未成年に与える喫煙、飲酒の怖さを感じました。特に脳細胞が破壊されてしまうという話を聞き、私達が今頑張って日々積み上げている勉強の知識、今までのがんばりが一瞬の気の迷いで全て失ってしまう、また、友人、自分の居場所など自分の持っている物も全て失ってしまう恐ろしさを強く感じました。私もしっかり今を生きなければいけないと思いました。